ボランティアサークル NONTS（ノンツ）

山根 佑基
（2018 年度入学　鈴木ゼミ 2 期生）

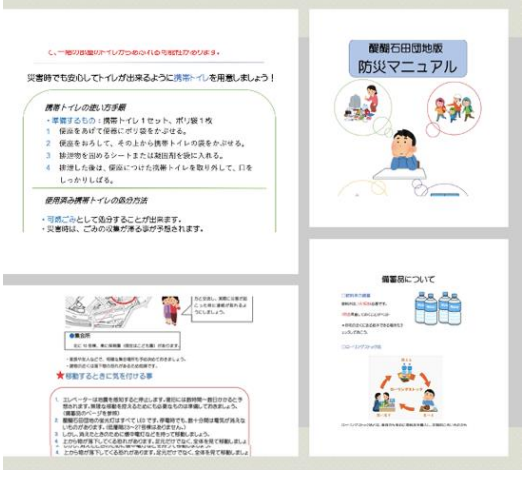
私の好きな京都は「京都産業大学届出団体ボランティアサークル NONTS（ノンツ)」です。私がこの団体を知ったのは入学したての新歓です。色んな人から話しかけられビラをもらう中で、なんとなく「ボランティアしませんか？」の声が印象に残り、話を聞いたのが始まりでした。当時私は高校時代好きだった世界史の影響もあり「インドでバックパッカーをしたい」と言う夢を持っていました。声をかけていただいた方にその旨を伝えると「うちの団体はインドでもボランティアしているよ」と言われたので、興味を惹かれ入会することを決めました。

京都産業大学届出団体ボランティアサークル NONTS(以下 NONTS)は、NPO 法人国際ボランティア学生協会、通称 IVUSA（イビューサ）と言う母体団体の京都産業大学支部という形で存在しています。まず、IVUSA とは何か。これは 1992 年、国士舘大学で行われた夢企画というものに起源を持ちます。大学受験人口がピークであった当時、多くの学生が挫折を味わい、夢を叶えられない状況にありました。そこで、学生たちの「勇気」「冒険心」「遊び心」を持った夢を募集し、その実行を大学が支援するという夢企画が実施されました。学生たちの夢は多岐に渡っていましたが、中でも社会に貢献したいという思いが多く集まりました。その熱意が IVUSA という組織を形作っていきました。現在では 80 大学、2500 人の仲間が IVUSA のビジョンである「共に生きる社会」実現のため障害となる社会課題の解決にボランティアという手段で立ち向かっています。活動分野は国際協力、地域活性化、環境保護、災害救援、子どもの教育支援の 5 分野に分かれており、会員の興味や夢に応じて参加する活動を選ぶことができます。また、この団体の大きな特徴の一つが「学生団体である」ということです。先ほど挙げた 5 分野の活動は NPO 事務局という大人の職員さんにサポートはいただいているものの基本的に一から学生が創り上げています。活動先の大人の方々との調整や移動、食事、宿泊施設の準備、活動に必要な装備の手配や企業への協賛品依頼。あるいは、活動に必要な知識面の共有を行う勉強会やリスクマネジメントなどを学ぶ研修。そのすべての運営を学生が担っています。ここまで大きな学生ボランティア団体は日本にここしかありません。

そのような団体を母体にもつ NONTS は、IVUSA の活動に精力的に参加して得た経験値を活かし、より身

近な京都市の社会課題解決に取り組んでいます。その一つに醍醐石田団地における防災教室があります。醍醐石田団地は京都市伏見区にあり、2000 世帯もの方々が暮らす大型の団地です。周辺に六地蔵総合病院と医仁会武田総合病院が存在するため入居者は高齢の方が多い傾向にあります。自治会は存在するものの、入居者が頻繁に出入りするため全員が参加しているわけではなく、地域としてまとまりがあるとは言えない状態にありました。防災教室を依頼される直接的なきっかけは 2018 年 6 月 18 日に起こった大阪北部地震です。伏見区では震度 5 強が観測され、その被害として団地のエレベーターが停止してしまいました。これはご高齢の方にとって買い物に出掛けられなくなるといった日常に支障をきたすものでした。その際団地の自治会には「なんとかしてほしい」との連絡が多く集まったそうですが、自治会役員の方々も被災した身であってどうすることもできなかったそうです。また、消防が行うような従来の防災訓練は大型団地の想定がされておらず役に立たなかったということもあり、災害救援活動などを行なっている NONTS に防災教室の依頼をいただくことになりました。

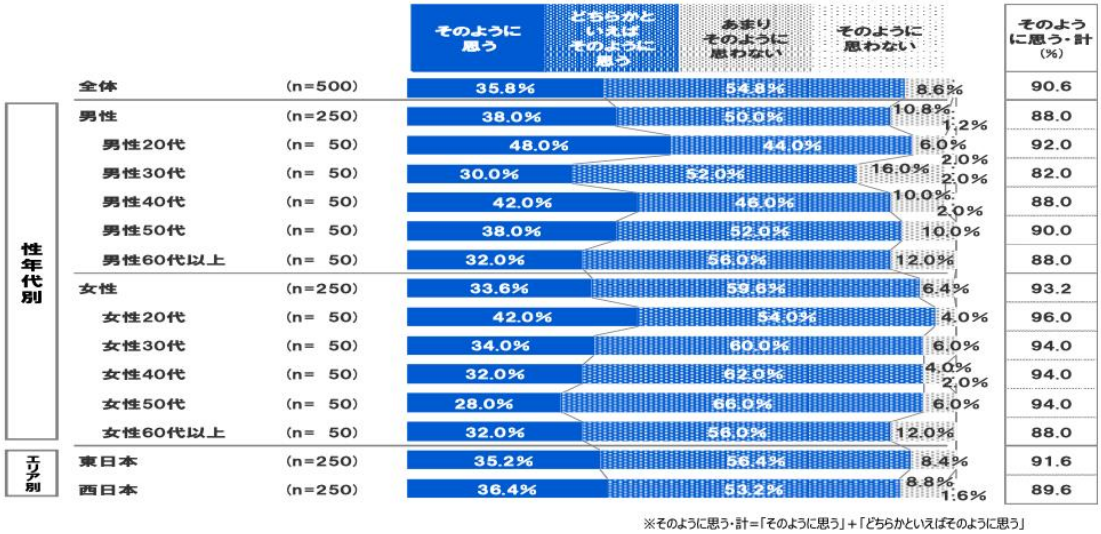
依頼を受けた際私は NONTS で防災セクションのリーダーをしていました。自治会長様とご相談を重ね「自助、共助に重点を置いた団地の防災教室」の開発を行いました。2019 年度には 6 月と 10 月に防災教室を行い、それぞれ避難所運営ゲームや被災後三日間の行動を考えるマイタイムラインなどを行いました。新型コロナウイルスが流行してからは対面の活動が禁止されたため、醍醐石田団専用の防災マニュアルを作成し、配布しました。徐々に対面活動制限が緩和されてきた現在は 2 月に行う防災教室に向け準備を進めています。この地域の方々を災害からまもるためにはどのような知識が必要なのか。どのような事前準備を行えば災害から身を守ることができるのかを考えるのは容易ではないです。ただ、悩み抜きながら行なった企画で地域の方々から「いい企画やった。勉強になったよ。」「学生さんがきてくれるだけで元気になったわ」と仰っていただけた時は非常にやりがいを感じました。これこそ私が大学 4 年間で得た 1 番の「私の好きな京都」だったように感じます。



最後に、私はこの団体でのボランティア活動を通して「自分ごとにする」ことの大切さを学びました。文字にすればたった七文字のこの言葉ですが実行に移すのは容易いことではありません。例えば南海トラフ地震が 30 年以内に 7 割という高確率で起こるという事実は現在では知らない人の方が稀ですが、実際に備えられている人は多くありません。これはセコム株式会社が 2021 年 7 月に行なった調査でも明らかです。

■調査項目・質問内容

Q1　あなたは、今後、災害の増加や被害が拡大する可能性があると思いますか。（ひとつだけ）
A1　□そのように思う　□どちらかといえばそのように思う　□あまりそのように思わない　□そのように思わない

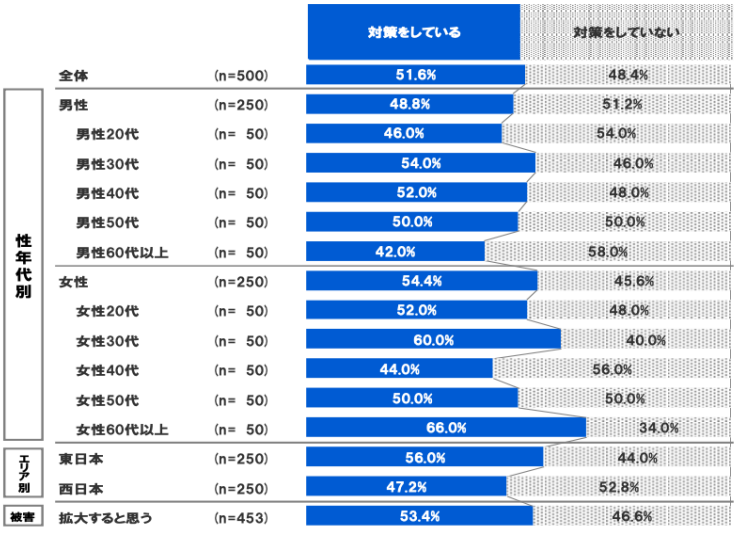


※そのように思う・計＝「そのように思う」＋「どちらかといえばそのように思う」

この表では性別、年齢を問わず 8 割以上の回答者が「今後災害の増加や被害の拡大がある」と回答していることが分かります。

対してこの表では、1 番対策をしている 60 代女性の層でも 6 割程度しか備えが進んでいない現状があることが分かります。防災に対する最低限の知識はあり、無くても情報が容易に手に入れられる日本において自助の備えが進まない要因の大部分は「災害、防災を自分ごとにできていない」ことによると考えます。災害は必ず予期しないタイミ

Q2　あなたは何らかの防災対策をしていますか。（ひとつだけ）
A2　□はい　□いいえ



ングで起こります。それによって受ける被害は住んでいる地域によって様々です。自分の身を守るのは自分しかいません。こうやって私の好きな京都を書いている、あるいは読んでいる今、大災害が起こって大切な人を失っても何も不思議はありません。自分の住んでいる地域のハザードマップを見てください。検索すれば出てきます。そこには自分がどのような災害でどのような被害を受けるかが細かく書いてあります。それを見た上で想像してください。被災時、自分の命を守る上で大事なものは何か。備えるべきものが分かります。それが眼鏡である人もいれば、簡易トイレである人もいるでしょう。防災においては確立した正解がないからこそ「自分ごとにする」ことが大切だと感じました。

以上が私の最も好きな京都である「京都産業大学届出団体ボランティアサークルNONTS」の紹介と、そこで学んだ大切なことの一部でした。